

## 受験プラン作成スタート②

昨日10月29日(月)は、「大学入試出願決定資料(三者面談に向けて)」の提出日でした。締め切りを守って提出できましたか? 思いのほか時間がかかったのではないのでしょうか?

模試の成績を踏まえて、いざ受験プランを作成し始めると、簡単な作業ではないということが分かったはず。皆さんの将来を左右することにもなる資料なのですから当然です。

今週末の3日(土)には、第3回ベネッセ駿台マーク模試があります。学校が会場となる最後の全国模試です。本番のつもりで臨みましょう。時程の確認とともにICプレーヤーの準備もよろしく願います。(毎年、リスニングの途中で電池切れの生徒が出ます。電池を新しいものにかえておいてください。)そして、正確な自己採点&自己採点シート(2枚)の提出まできちんとやりましょう。来週7日(水)には第2回ベネッセ駿台記述模試の個人結果がマナビジョンにupされます(学校から紙での返却は15日(木)の予定)。新たなデータや担任のアドバイス等を踏まえて、「大学入試出願決定資料(三者面談に向けて)」を再提出してもらうわけですが、ここでは前号(テーマ:「自分の偏差値[基準線]」の設定・受験科目・配点・出題形式まで踏まえたプランを!・ゾーン毎に難易度の幅を持たせる!)に引き続き、受験プラン作成のポイントをいくつかお伝えします。

### ➤ 「合格確実校」は必ず受験する!

大学入試本番(特に「センター試験」)は、これまでに経験したことがないようなプレッシャーがかかります。心理的に余裕をもって「チャレンジ校」「実力相応校」に臨むためにも、「合格確実校」を必ず受験しましょう。その際、「全学部日程方式」「1教科入試の大学」「新設大学・新增設学部・新增設学科」「学科試験以外の配点比重が高い大学・学部・学科」などは、一般に「合格確実校」に適さないとされています。注意しましょう。

### ➤ 「合格発表日」「入学手続日」もチェック!

大学受験では合格すると、指定された期日までに手続き金を納めなければなりません。これは「入学金」等を名目とするもので10万円単位の金額になります。できる限り無駄な出費がかからないようにするためにも、「試験日」だけでなく、「合格発表日」「入学手続日」をも考慮した受験プランを作成しましょう。

\*\*\*\*\* 表1: Aさん(私大商・経営系志望)の受験プラン \*\*\*\*\*

	大学・学部・学科	偏差値	試験日	発表日	手続日
第3志望	法政・経営・経営戦略	62	2月8日	2月18日	2月26日
第2志望	明治・経営・経営	66	2月10日	2月17日	3月4日
第1志望	早稲田・商	72	2月21日	3月1日	3月8日

**アドバイス:** Aさんの受験プランであれば、受験校すべてに合格した場合、第1志望校以外に手続き金を払わなくて済むことがわかります。下位志望校の「手続日」を、上位志望校の「発表日」よりも後になるように受験プランを作成できれば理想的です(なかなか難しいのですが…)。

## 今年度入試動向分析①

~旺文社『蛭雪時代・2018年11月号』から~

受験勉強も大切だけれど、志望校や併願校の人気度や難易度も気になるのではないのでしょうか? 関東・甲信越を中心に抜粋してみました。

### 【関東・甲信越】

筑波大・横浜市立大・中央大が志願者増、千葉大・東京外国語大・上智大・法政大が志願者減か。

<国公立大>

#### ●茨城大

18年は全学で志願者10%増。その反動から、人文社会科学【前】【後】・理【後】・農【前】【後】で志願者減が予想される。

一方、やはり前年の反動から、工[昼]【後】で志願者増が見込まれる。

#### ●筑波大

全学の志願者増減(17年9%増→18年13%減)のゆれ戻しから、各学群・学類の前期では、日本語・日本文化・社会・国際総合・教育・地球・物理・応用理工・工学システム・社会工・看護・医療科学・体育専門・芸術専門で志願者増が見込まれる。社会工【前】は募集人員増(80人→83人:AOを廃止)も要因となりそう。

一方、人文・比較文化・情報科学・情報メディア創成の前期は、前年の反動で志願者減の見込み。また、医【前】は募集人員減(77人→72人)と2段階選抜の予告倍率引き締め(約5倍→約2.5倍)が敬遠され、大幅減は必至。知識情報・図書館【前】も募集枠縮小(50人→40人:推薦枠拡大)が志願者減の要因となりそう。

#### ●宇都宮大

工を「4学科→1学科(3コース)」に統合・改組し、募集人員も「後期→前期」に移行(前期215人→232人、後期54人→40人)。工【前】で志願者増、工【後】で志願者減が見込まれる。

教育で後期を募集停止し、前期を募集人員増(105人→117人)。ただし、教育【前】は2次負担増(面接を追加)が敬遠材料となり、志願者減で易化しそう。また、茨城大-教育【後】、群馬大-教育【後】との併願が増えそう。

この他、前年の反動から、地域デザイン科学【前】で志願者増、地域デザイン科学【後】・国際【前】で志願者減が見込まれる。農【前】【後】も、福島大-農学群の新設が影響、やや志願者が減少しそう。

#### ●群馬大

前年の反動から、教育【後】・医(医)【前】で志願者増、社会情報【前】・医(保健)【前】・理工[夜]【前】で志願者減が見込まれる。教育【後】は宇都宮大-教育の後期募集停止も影響しそう。

#### ●埼玉大

前年の反動から、教養【前】【後】・教育【前】で志願者増、経済【後】・工【前】【後】で志願者減が見込まれる。教養【前】には千葉大-国際教養【前】、教育【前】には千葉大-教育【前】から志望変更が増えそう。

#### ●東京大

理科3類【前】は2段階選抜の予告倍率引き締め(約4倍→約3.5倍)が敬遠材料となり、志願者減が見込まれる。一方、学部系統の人気度から、文科2類【前】でやや志願者増が見込まれる。

【裏面に続く】

## ●千葉大

教育【前】で「5→1 課程」に統合、定員減に伴う募集人員減（315 人→297 人）が志願者減の要因となりそう。また、法政経【前】【後】は、後期の募集人員減（75 人→70 人：AOを導入）や、2 段階選抜の予告倍率引き締め（前期=4 倍→3.5 倍、後期=15 倍→13 倍）が敬遠され、志願者減が見込まれる。

一方、薬は前期の募集人員増（60 人→70 人）、後期（薬科学科のみ実施）の2 次変更（総合問題→理科2 科目）が人気材料となり、いずれも志願者増が見込まれる。また、工は募集人員を「後期→前期」に移行（【前】459 人→466 人、【後】141 人→124 人）、後期の志願者大幅減に直結しそうだ。

この他、前年の反動から、医【前】・園芸【前】【後】で志願者増、国際教養【前】・文【後】・理【前】・看護【前】で志願者減が見込まれる。

## ●東京医科歯科大

前年の反動から、医(医)【後】・歯【前】で志願者減、医(保健衛生)【前】・歯【後】で志願者増が見込まれる。

## ●東京外国語大

「国際日本学部」を増設。募集人員は前期のみ35 人で、人気分野として多くの志願者を集めそうだが、2 次で課す「英語スピーキング」が、初年度は敬遠材料となる可能性もある。

一方、既設の2 学部は定員減と推薦枠拡大（国際社会は新規実施）に伴い、一般入試の募集人員を変更（言語文化【前】343 人→290 人、国際社会【前】251 人→254 人・【後】109 人→56 人）。募集枠縮小の言語文化【前】・国際社会【後】は、志願者大幅減が見込まれる。

## ●東京海洋大

海洋生命科学【前】【後】・海洋資源環境【前】【後】の出願資格で、英語検定利用を全面的に必須とし、経過措置（セ試の英語の得点または順位が、学部等の指定基準以上でも出願可）を廃止。敬遠材料となり、志願者減は必至。

一方、前年の反動から、海洋工【前】【後】は志願者増が見込まれる。

## ●東京工業大

類別入試（7 つの「類」で募集し、入学後、2 年次以降に各類で指定された、他大学の学部に近い「学院」に進む）から「学院別入試」に移行する。後期は生命理工学院のみ実施。前期は全学一括募集ながら、第3 志望まで出願するため、実質的に学院別募集であり、受験時から志望「学院」を目指せる分、受験生の人気を集めそう。また、前期は募集人員増（全学で886 人→900 人：AOを縮小）も志願者増の要因となりそうだが、学費値上げ（535,800 円→635,400 円）の影響が注目される。

なお、前年の「類」と「学院」を対比すると、生命理工【前】【後】で志願者増、物質理工【前】で志願者減が見込まれる。

## ●東京農工大

工を8→6 学科に再編、募集人員を「前期→後期」に移行（【前】326 人→284 人、【後】160 人→183 人）。前年の反動もあり、農【前】で志願者増、工【後】でやや増加、工【前】で大幅減が見込まれる。

## ●お茶の水女子大

前年の反動から、文教育【前】【後】・理【前】・生活科学【後】で志願者増、理【後】・生活科学【前】で志願者減が見込まれる。

## ●一橋大

18 年は法・社会の後期募集停止などで志願者8%減。前年の反動から、商【前】・法【前】で志願者増、経済【前】【後】・社会【前】で志願者減が見込まれる。

## ●横浜国立大

前年の反動から、教育【前】・経済【後】・経営【後】・理工【後】で志願者増、都市科学【前】・理工【前】で志願者減が見込まれる。経済【後】・経営【後】は一橋大・商【前】・経済【前】からの併願が増加しそうだ。

## ●上越教育大

学校教育【前】は、前年の反動に加え、2 次負担増（集団面接を追加）が敬遠材料となり、志願者減の見込み。新潟大・教育【前】、信州大・教育【前】などに志望者が流出しそうだ。

## ●新潟大

医(医)【前】で、2 次の数学・理科・外国語を各150 点→400 点にアップし、セ試・2 次の配点比率を「750：450→750：1200」と「セ試重視→2 次重視」に逆転。また、2 段階選抜（予告倍率=4 倍）を新規実施する。敬遠材料となり、志願者減が見込まれる。

この他、前年の反動から、創生【前】【後】・教育【前】【後】・法【後】・理【後】・医(保健)【前】【後】・工【前】【後】・農【前】で志願者増、法【前】・理【前】・歯【前】【後】で志願者減が見込まれる。

## ●山梨大

前年の反動から、教育【前】【後】・医(医)【後】・工【後】で志願者増、医(看護)【前】【後】・工【前】で志願者減が見込まれる。医(看護)【前】は募集人員減（35 人→30 人：推薦枠拡大）も要因となりそうだ。

## ●信州大

前年の反動から、経法【前】・医(医)【前】・医(保健)【後】・農【後】・繊維【前】【後】で志願者増、工【前】【後】で志願者減が見込まれる。教育【前】は上越教育大【前】から志望者が流入、やや増加しそう。一方、経法【後】は募集人員減（応用経済学科20 人→15 人）が要因となり、やや志願者減が見込まれる。

## ●埼玉県立大

保健医療福祉【前】は、次の学科・専攻でセ試の科目数を軽減。理学療法=7(8)科目→5 科目、作業療法=6 科目→5 科目、検査技術科学=6(7)科目→5 科目。前年の志願者39%増の反動を相殺する人気材料となりそう。千葉県立保健医療大・健康科学【前】の募集人員減（108 人→92 人）の影響もあり、やや志願者増が見込まれる。

## ●首都大学東京

18 年は、都市教養を4 学部（人文社会・法・経済経営・理）に分割したが、全学の志願者は4%減。2 年目を迎え、認知度が高まったものと見られ、経済経営【前】【後】・理【前】【後】は志願者増が見込まれる。この他、前年の反動から、都市環境【前】・健康福祉【前】【後】で志願者増が見込まれる。

【次号に続く】